

# 蓮田市閏戸・平野地域包括支援センター便り

Vol.1



担当地区：井沼・閏戸・貝塚・上平野・駒崎・高虫・根金

2024  
2月号

蓮田市大字閏戸1885番地（吾亦紅内）

TEL:048-766-0022（直通）

FAX:048-766-5865

E-MAIL:uh-houkatsu@kissyou.or.jp



こんにちは。蓮田市閏戸・平野地域包括支援センターです。  
このたびは、地域の皆様に私たちのセンターの事や、活動内容を知っていただきたいと思い、蓮田市閏戸・平野地域包括支援センター便りを発行させていただきます。よろしくお願いいたします。

地域包括支援センターは、おおむね65歳以上の高齢者に、健康保持や生活安定のために必要な援助を行うことを業務としている機関です。特別養護老人ホーム内にある当センターは、平成28年4月から蓮田市の委託を受けて約7年の間活動をさせていただいております。

当センターでは、当事者である高齢者やそのご家族が希望する生活をどうしたら実現できるかを考えます。さらに、そのためにどのような制度があるか情報提供します。また、介護予防のための体操教室を開催したり、認知症についての理解を深めていただくために、認知症カフェオレンジの音色を開催したりと、様々な取り組みを行っています。

今後も皆様が、住み慣れた地域で安心して暮らしていけるよう、最も身近な機関になるように努めてまいります。心配なことなどあれば、お気軽にご相談ください。

センター長

## よくある相談の紹介

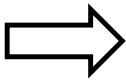


最近、足腰が弱ってしまい、介護保険でリハビリを受けられると聞いて介護認定を受けました。介護保険証が市役所から届きましたが、利用するにはどうしたらいいのですか？



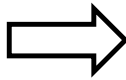
介護保険サービスを利用するには、まずケアプラン(介護サービス計画書)を作成するケアマネジャーに相談をしていただきます。認定結果に応じて相談先が異なりますのでご注意ください。

### 要支援1・2



当センター(☎048-766-0022)までお電話ください。センターで担当を決めて、担当者より連絡をいたします。その際に担当者が訪問する日にちを決めます。※面談は、できるだけご家族の同席をお願いいたします。

### 要介護1～5



介護保険証と同封の「蓮田市内居宅介護支援事業者一覧」を参考にして、**本人・家族等が直接ケアマネジャーに相談(依頼)をします。**蓮田市を対応エリアにしている事業者であれば市外でも相談することができます。各市町村のホームページなどで事業者一覧が掲載されていますので、インターネットで検索してみてください。



蓮田市の居宅介護支援事業者の詳細一覧をホームページで見ることができます。

蓮田市 在宅医療連携ガイドブック  
ケアマネジャー



## 「課題抽出型地域ケア会議」を行いました

蓮田市の地域包括支援センターでは、市内5地区の民生委員・児童委員協議会担当地区ごとに、地域の課題を取り上げ、必要なサービス等を作りあげたり、支援体制を整えるために「課題抽出型地域ケア会議」を毎年開催しています。今年度、当センターでは、「高齢者の見守りについて『ごみ捨ての課題から考える』」をテーマに、会議に参加いただいた民生委員・児童委員の皆様とケアマネジャーの皆様とで意見交換をしました。お話の中から、ごみ捨てに関する課題がある一方で、住民同士の支えあいや自然とできていく地域があることが分かりました。今回出たご意見を、一部ですが紹介いたします。

### ごみ捨てについての各地域での実状と取り組みや工夫

- ・ごみ捨てが大変そうな人には、民生委員が前日や当日に声をかけている。
- ・地域の人とのコミュニケーションができていないと、ごみ捨てを隣人にお願いしづらい。
- ・高齢者がカートを引いてごみ捨てにくることが増えた。
- ・高齢者が高齢者を助けている。
- ・ボランティアで集積所の管理をしている人が、気がかりなことなどがあると民生委員に繋いでくれている。
- ・ごみ捨て場の掃除当番ができない人は、しなくともよいことにしている。
- ・ごみ出しの見守りや集積所の片付けを善意でしている人がいる。 など



### アイディア～ごみ捨てから「支えあう・見守りあう」について～

- ・さいたま市では、中学生が通学時にごみ捨ての協力をしている。大人が出勤時にごみ捨ての協力をしてはどうか。報酬(ごみ袋など)があると良い。スタンプを集めるなどはどうか。
- ・ごみ捨てが大変そうな人と行き会った時に、「私が持って行くよ」と声をかける。
- ・地域の高齢者が、ごみを出す時間を工夫し、周囲の方と協力し合う。
- ・ボランティアを募る。 など



### 地域包括支援センター担当者の感想

今回の意見交換で、ごみ捨てに困っている高齢者に対して優しい手を差し伸べてくださっている方がたくさんいることが分かりました。そういった人が増えていくと、誰もが暮らしやすい地域になっていくと思います。また、「隣人とお付き合いが少ないと、ちょっとしたことでも頼みづらい」との声から、サロンなどの交流の場が大切だと感じました。

ごみ捨ては日常的事業なので、住民同士の「支えあい」により自然と「見守り」にも繋がると思います。高齢化がますます進んでいき、ごみ捨てなどで困る人も増えてくると思われます。そのために、地域で困りごとを解決する方法を考え、「支えあう」「見守りあう」ことが自然とできる地域づくりを住民の皆様と一緒に進めていきたいと思っています。